

「将来の患者さんのため」だけじゃない
あなたの東洋医学的青春を

君たちは
東洋医学と
どう 生きるか。

第44回日本東方医学会学術大会内
学生セッション

12/20 10:30~11:10 @お茶の水ソラシティ

大学時代はモラトリアム期間である」とよく言われる。それが単なる「働く義務の猶予・準備期間」ではなく、「自我形成のための模索・探求期間」を意味するというのは、いまや通説となった。

しかしこと医療系学生において、大学生活は前者に偏重しがちである。シラバスはどこまでも、国家試験や臨床現場のための実用的な準備の様相を呈している。

では、東洋医学系サークルに身を置く学生にとって、東洋医学とは単なる「職のための事前準備」に過ぎないのだろうか。
東洋医学は、「将来の患者さんのため」だけにあるのだろうか。

——自我形成の模索という意味での学生生活において、東洋医学のレゾナードール（存在意義）とは何か。
あなたの「東洋医学的青春」を、ここで発表してみませんか。

サークルの活動報告をする必要はありません。サークルを代表する必要もありません。正しさや誠実さは気にしません。発表の優劣はありません。
発表者様にとっての、東洋医学を教えてください。
あなたは、東洋医学とどう生きますか？

発表形式:会場にてスライド等用い口頭発表
持ち時間:一発表者様あたり5分予定